



まち ネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

# 寄居町の 自然エネルギー推進の町宣言 を求める

平成 23 年 8 月 31 日

寄居町議会議長  
坂本 建治 様

## 寄居町の「自然エネルギー推進の町宣言」を求める要望書

寄居町は「安心・安全」「食と農」「健康」を合言葉に、豊かな自然環境と誰もが明るい暮らしを創造する町として前進しています。

私たちは、寄居町における「自然エネルギー推進の町宣言」を求めます。

今回の東日本大震災と福島原発事故は、私たちの町にも大きな影響を及ぼし、放射性物質による健康への影響を心配する声は大きく、特に、乳幼児や子どもたちを抱える若い親たち、大切な命を生み出す妊婦さんたちは、これまで経験したことのない戸惑いと不安にさいなまれています。また、食を担う農業、酪農などの従事者にとってもこの汚染問題は大変深刻な状況です。それは、私たちの町が掲げている「安心・安全」「食と農」「健康」の根幹を大きく揺るがしていることであり、放射能汚染がもたらす甚大な被害と次世代への多大な影響を私たちは見過ごすことは出来ません。第 2 第 3 の福島は今後も日本列島の中で起こり得る現実です。

私たちは、持続可能な再生エネルギーとして、安全な自然エネルギーの活用を望みます。その地域にあった豊かな自然を利用した、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど地産地消のエネルギー開発を求めます。「大規模・独占・集中」のエネルギーではなく、「小規模・分散・自立・共同」を目指すエネルギーを選択します。私たちは、いま、安全で安心な暮らしを創り、健康を願い、食と農がそれを支えてくれていることを、この先の将来を生きる次世代の子どもたちに引き継いでもらわなければなりません。

今できること、それは自然エネルギーへの転換であり、寄居町町民の共通の願いとして「自然エネルギー推進の町宣言」をすること。寄居町における「自然エネルギー推進の町宣言」は、これからの子どもたちに故郷を託すメッセージでもあります。

この宣言を寄居町議会が賛同し、議会宣言とすることを強く要望いたします。

まちネットワークよりい  
寄居町大字用土 2580-5  
代表 篠原由実子

## 新たなまちづくりの 基本姿勢として

「自然エネルギー推進の町宣言」の要望書を議会に提出

去る8月31日「まちネット寄居」は、寄居町議会議長宛に「自然エネルギー推進の町宣言」を求める要望書を提出しました。ここでは議会提出の動機や意味などを説明、報告します。

「自然エネルギー推進の町宣言」要望書の背景を整理すると二つになります。

一つは、エネルギー活用のあり方が都市や地方問わず、すべての人たちの社会的課題になっている点。

二つ目は、福島原発事故により経済、産業、暮しなど私たちの活動すべてが、いままこれまで体験しなかった強いストレスを受けている現状。

これらの背景から私たちは、自然エネルギーを軸としたまちづくりを進めていく意思表示「自然エネルギー推進の町宣言」の要望書を議会に提出しました。

要望書の提出先を議会議長とした最大の理由は、町民の意思の代表議決機関である議会でのこの宣言を議論し、採択することが、議会の大きな役割、だと考えるからです。

「自然エネルギー推進の町宣言」要望書は「寄居町を耕す人の会」からも提出されました。これらの要望書は、先の6月議会終了後に議長から全議員へ手渡され反響があったと伝わっています。

この宣言は、安心・安全を掛け声だけに終わらせないで、具体的な自然エネルギーを活用する持続可能なまちづくりへ転換するとばかり、と捉えています。

まちネット寄居は『自然エネルギー』を太陽光や風力、潮力、地熱などの自然現象から得ることができ

るエネルギー、と捉え、この自然現象で発生している環境を利用して、繰り返し利用できるエネルギーを『再生可能なエネルギー』と認識しています。そして自然エネルギー推進宣言の要望書提出を他のサークルやクラブ、趣味の会などの諸団体へも呼びかけ運動を続けたいと考えています。



## いましか聞けない戦争体験のお話 No.6

第6回 いましか聞けない戦争体験のお話～学童集団疎開の体験談～  
「あの頃の僕から、今の君たちへ」を9/24(土)開催しました(生活クラブ寄居支部・小川支部との共催)。今年も、南部敏明さんにお越し、人間郡内(当時)の寺に学童集団疎開した小学3年生当時の様子を中心に、お話を伺いました。参加者数は、22名。以下、参加者の感想を抜粋します。

◆私は、今まで直接戦争体験のお話を聞く機会がありませんでした。初めて聞くお話ばかりでした。南部先生が、疎開された当時は小三で、ちょうど長女も現在小三なので、ぜひ一緒に聞きたいと思い、小三のお友達と参加しました。子どもたちには、難しいところもありましたが、貴重な物も見せて頂き、よい体験になったと思います。(N.O)

◆お話を聞いて改めて感じたことは、今現在の生活はとても恵まれているということだ。何の疑問も持たずに今の幸せな暮らしを享受しているが、私達の知らない戦争について、より学ばなければならないと思った。(K.Y)

◆「自分も戦争で何れは死ぬと思っていた。敵艦に体当たりして、一瞬にして苦しまず死にたいと考えていた。」南部少年の秘めていた想いに戦争の罪深さを知った。当時の鉛筆

やハガキ、硬貨、日記なども拝見し、66年前の空気に触れたような気がした。(Y.S)

◆その体験が南部さんの人生に大きな影響を与え続けているということが、とても印象的でした。言葉では語り尽くせない多くの犠牲の上に与えられている今この時に感謝しつつ、日々“平和”を祈りつつ、内に外に、平和をつくり出すものでありたいと心に強く思いました。(M.M)

◆自分がその立場になったことを想像すると、どうにも身体が収まらなくなる。戦争も原発も絶対にあってはならない。子供たちに、夢を持てる社会をつなげたいと思う。(N.E)



◆子どもたちが常に我慢を強いられ、その辛さを訴えることができない環境で生活をしなければいけない、学童疎開はどんなに大変だったであろうと思いました。空腹・いじめ・感染症・厳しい規律や上下関係にストレスを抱え、幼い学童に大きな傷跡を残したことでしょう。南部さんが今になっても忘れられないと語ってくれた

言葉にとっても大きな重みを感じました。またわが子と離れて暮らさなければいけない親の心情も複雑であったと思います。戦争は子どもたちにとっても親にとっても何もよいことはありません。実際の体験談を直にうかがうことができ、貴重な体験となりました。今後このような悲劇が起らないよう、戦争を知らない私たちが次の世代へどのように語り継いでいかなければいけないのか、改めて考えさせられました。(M.Y)

まちネット寄居では、平和を考え、暮らしを見つめ直す機会、語り継いでゆく役割を再認識するためにも、「いましか聞けない戦争体験のお話」を、毎年、年間計画に位置づけています。

## 松葉による重金属類調査

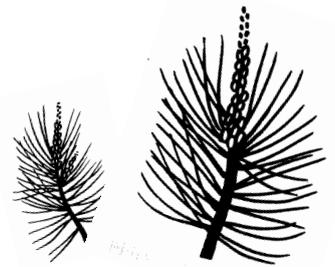
8月21日(日) 午前、環境整備センター内(彩の国資源循環工場周辺)の松葉採取(重金属類調査)に参加しました。当日は、小雨の中、14名の参加者が5ヶ所の松から2年葉を各100gずつ採取し、生活クラブ寄居支部から分析施設に送られました。活動中、臭いはほとんど気にならなかったのですが、集合場所の事務所付近から採取場所に移動したところで、鼻の奥がツンする感じがありました。さらに、採取を始めて30分くらいすると、頭が重くなり、若干の息苦しさも覚えましたが、2時間程度の作業をなんとか無事に終えました。ただ、この頭重感、夜中まで尾を引いて閉口しました。私は、ここに限らず、工業地帯等に近づくと同様の症状が出やすいタイプですが、ほかの参加者の多くも、その場で不調を口にしていたので、やはり、体に悪影響のある物質が排出されているのだなと実感しました。

## 飛びぬけて高い水銀値

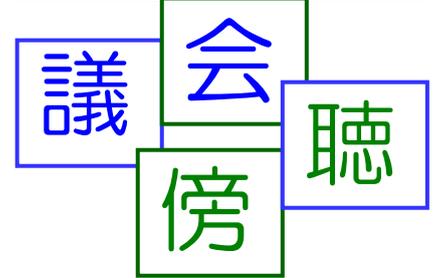
さて、その調査結果は、12項目の重金属類のうち7項目で前回を上回りました。特に、水銀濃度は $0.16 \mu\text{g/g}$  という結果で、前回2009年 $0.09 \mu\text{g/g}$ から大幅に上昇しており、2006年 $0.023 \mu\text{g/g}$ の7倍に増加していることとなります。少なくとも過去の調査結果と比較して悪化していることは明白で、かつ、全国で行われてきた松葉調査結果との比較では、郡を抜いて高い濃度であることから、事の深刻さが理解できます。県では、周辺大気調査の結果を公表していますが、敷地内の水銀調査は、行っていません。

## 体育館やグラウンドを使っているけど大丈夫なの？

敷地内には、住民が利用できる、体育館やグラウンドがあり、それらを安心して利用できるようにするためにも、敷地内の調査と公表を県へ要請し、結果によっては適正な処置を求めてゆくこと。さらに町議会へもこの対応を県へ求めるよう働きかけていくことも検討していきます。まちネット寄居は、生活クラブ寄居支部・小川支部、彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば、ワーカーズコレクティブキッチンそら豆と『松葉による大気調査2012年実行委員会』を立ち上げ、来年もこの問題に取り組んで行くことにしました。近隣の協議会や町民だけでなく、県民の多くの人たちに感心を持ってもらえるような動きを作っていければと思っています。ぜひ、会員の皆さんも積極的に関わり、ご意見等お寄せくださいね。 篠原由実子



## 9月議会一般質問



### 一般質問傍聴

4月の統一地方選後、新体制の議会になって2回目の定例議会である。10名の議員が一般質問に登壇。その内新人議員は6名。新議員の意欲的な姿勢が伝わってくる。時間の関係で、初日の午前中のみ、新人議員3名の質疑応答を傍聴する。3名の議員とも自分の問題意識の範疇でやや気負いも感じられたが、議員同士の競争意識ものぞかれる中で、熱弁をふるっていた。町長とのやり取りはいままでない軽快な言葉のやり取りなど、その表現にも世代の推移を実感させられ新鮮な印象だった。けれど、なるほどと思わされる一方、いま私たち生活者が一番関心のある福島原発事故後、ずっと不安に感じている放射性物質の汚染問題には誰も触れていなかった。小さな子どもを抱えている親たちは日常の中で、この公園で遊ばせて大丈夫？ 学校給食の食材は？ 校庭の真ん中だけの放射線測定だけでいいの？ と様々な不安を抱えながら生活をしている。こういった声を代弁する議員がいないのは感覚のずれなのか。また脱原発の声が大きくなってきた中で今回、節電エネルギーについてという項目で、一人稲山議員が町でのその具体的

な施行について質問。さらに太陽光発電の設置の推進に絡め、そのエコモデル特区構想を質問するなど、再生可能なエネルギーの取組の気運が高まってきているのは歓迎したい。昨年の議会体制とは雰囲気はかなり変わって新しい流れを予感させる議会と感じた。 大北秀子

## 肥田舜太郎氏講演会から

震災による福島原発事故後、様々な所で放射線に関する講演会が企画されている。そのひとつ、10月10日の深谷シネマサポーターズクラブ主催による肥田氏の「ヒロシマ、ナガサキからフクシマへ 内部被爆について」の講演を聴く。

肥田氏は94歳。軍医をされていた28歳のときに広島で被爆。原爆投下直後より被爆患者の治療に当たり、被爆の恐怖を目の当たりにしながら、被爆医療と核廃絶運動に身を投じて生きてこられた。戦後の核実験による大勢の被爆の実態を語る肥田さんは、とても94歳とは思えない澁みのない言葉と、力強い声、何よりその情熱に驚かされた。原爆も原発も人間がコントロールできない放射線エネルギーであること、ヒロシマ・ナガサキの内部被爆の実態は長い間隠されてきたこと、放射線数値に安全な基準はないことなど実体験の言葉の数々から大変な重みが伝わってくる。日々の暮らしの中で、どのくらいの数値なら大丈夫なの？ ひまわり油がよいと聞きましたが、といった対処療法について走ってしまう私たち、肥田さんの答えはきわめて明快。私たち一人一人ができること、まずは免疫力を上げる生活をする。無論できる限りの被爆は避けることが前提だが。しかし何より大切なことは私たち国民が、原発も、核兵器もいらないと意思表示していくこと。原発、核兵器を温存する勢力は強固だが、この構造を変えていくしか解決策はな

い。肥田さんのこの熱い情熱と力強いメッセージに大きなエネルギーを頂いた。(H.O)



## 容器法見直しと2R促進を求める 国会請願 採択！

まちネットも署名協力した「容器包装リサイクル法を見直し、発生抑制と再使用を促進するための仕組みの検討を求める請願」(39万4165筆)は、8月31日、衆・参各環境委員会で全会一致により採択されました。寄居町では、国に対して同趣旨の意見書を提出しており、市民の声を後押ししてくれました。このような動きが全国的に集まったことで、国難と呼ばれる時期にありながらも、こうした結果を得ることができたのだと思います。今後は、この採択を受けて内閣がどのような働きを見せるのか、さらには、その先の法改正の行方を注視していく必要があります。環境に優しい持続可能な社会を目指した法改正を実現させるため、今後も市民の声を発信していくことが大切ですね。(Y..S)

見直しに反対の  
圧力が強くなっ  
ているんだっ  
て！ 実現まで  
もっともっと力  
を合わせようよ



## information お知らせ ネット会員募集中 いつでもどうぞ！

暮らしの中で気になっていること  
何でも話し合いませんか？

問い合わせ・申し込みは

篠原 TEL584-5344 まで

## 【町長との懇談会】

- 日時 11月16日(水)  
午後6時30分～8時(予定)
- 場所 中央公民館 2階  
和室C
- 対象 まちネット寄居会員

島田町長就任から1年、これまでの所感、今後の展望、まちネットが要望した自然エネルギー推進などについて、提案型懇談会を計画しています。直接会場にお越しください。たくさんのネット会員の参加をお待ちしています。

## 編集後記

11月3日、「みんなで決めよう原発国民投票、つながろう埼玉」の日高市の仲間呼びかけで神流町にある「かな高原牧場太陽光発電所」へ見学に行った。(設置者:NPO ふるさとの和) 幼児、子どもを抱えた30代の4世帯の家族ほか総勢20名余りが参加。この発電所は、市民の出資、設置で農場を囲む山の斜面を利用して作られている。年間予想発電量11000kWh/年、売電予想額42万円、何より地産地消のエネルギーの実践に取り組んでいることに感動。熊谷市、寄居町など日照の長い気象条件に恵まれた地域でもっともっと取組めるのでは、といった望が見えてきた。たくさんの仲間との出会いがあり実りある1日となった。(H.O)